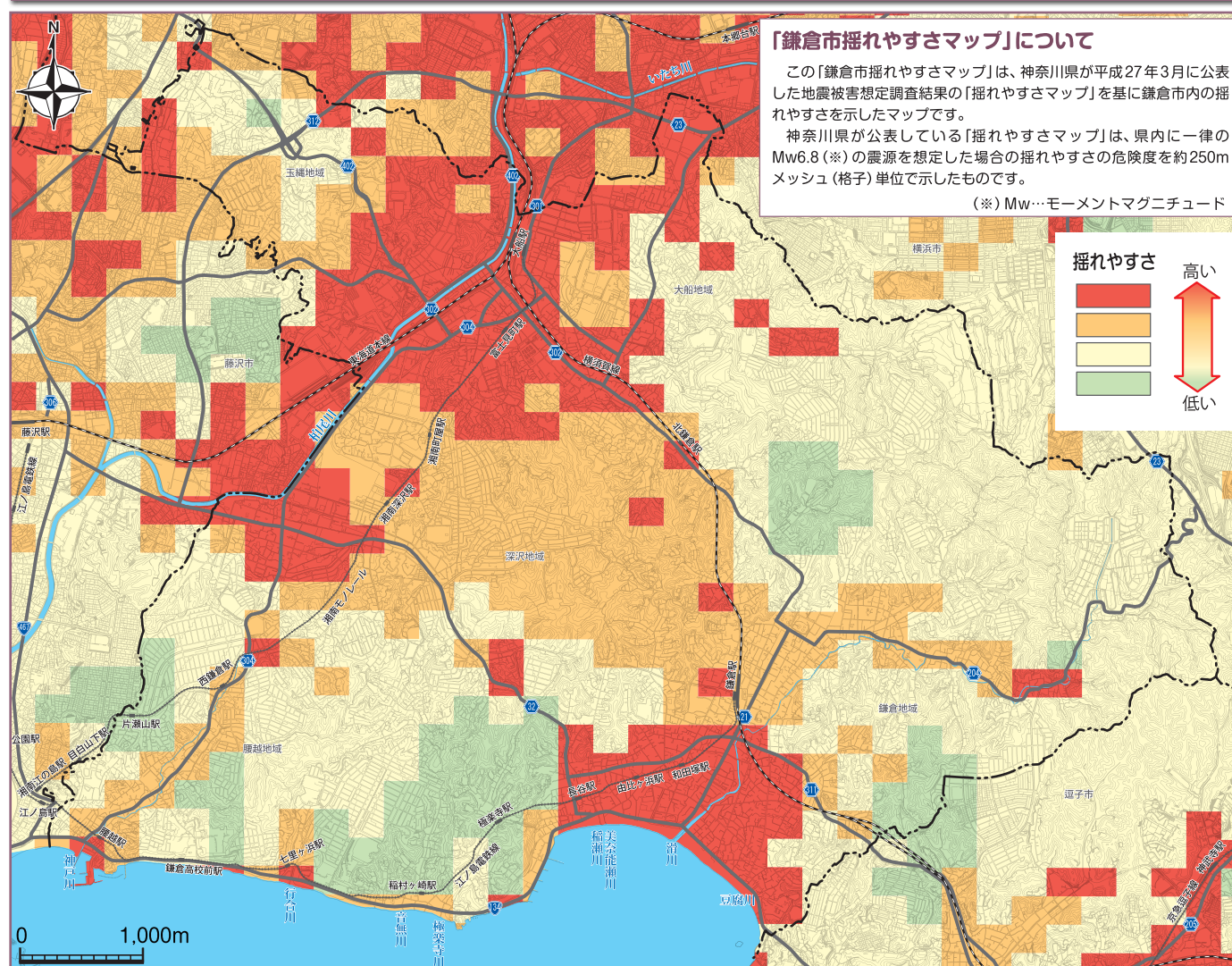


2-2. 鎌倉市 揺れやすさマップ



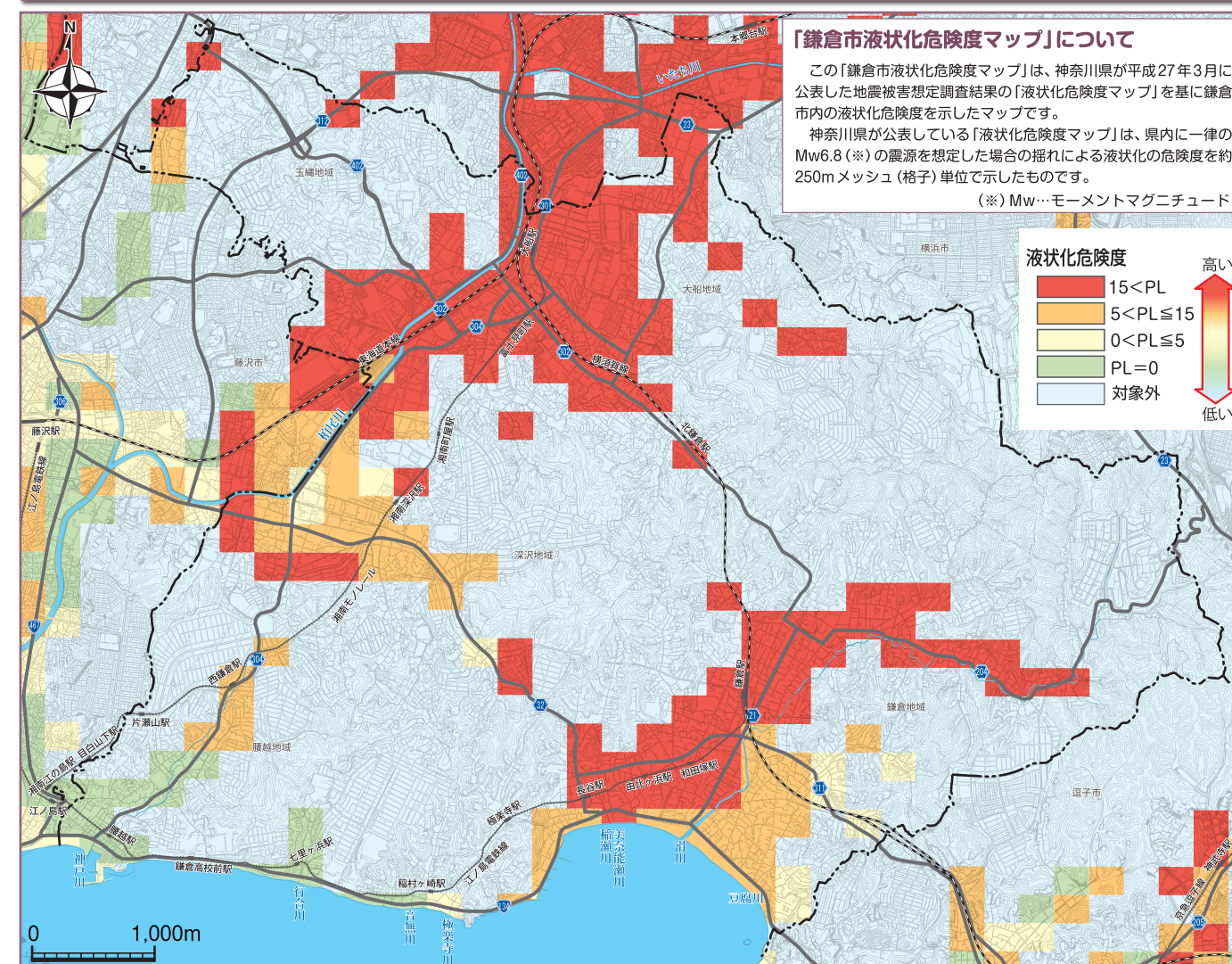
横浜市建築局横浜市都市計画基本図データ（地図情報レベル 2500）により作成
この地図の作成に当たっては、藤沢市の承認を得て、同市発行の 2500 分の 1 図を使用した
この地図の作成に当たっては、逗子市の承認を得て、同市発行の 2500 分の 1 図を使用した

揺れ方の目安

震度 4 ● ほとんどの人が驚く。 ● 電灯等のつり下げ物は大きく揺れる。 ● 座りの悪い置物が、倒れることがある。	震度 5弱 ● 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ● 棚にある食器類や本が落ちることがある。 ● 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	震度 5強 ● 物につかまらなると歩くことが難しい。 ● 棚にある食器類や本は落ちるものが増える。 ● 補強されていないブロック塀が崩れることがある。
震度 6弱 ● 立っていることが困難になる。 ● 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。	震度 6強 ● はわないと動くことができない。 ● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが増える。	震度 7 ● 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ● 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物は、倒れるものが増える。

気象庁 震度階級関連解説表より作成

2-3. 鎌倉市 液状化危険度マップ

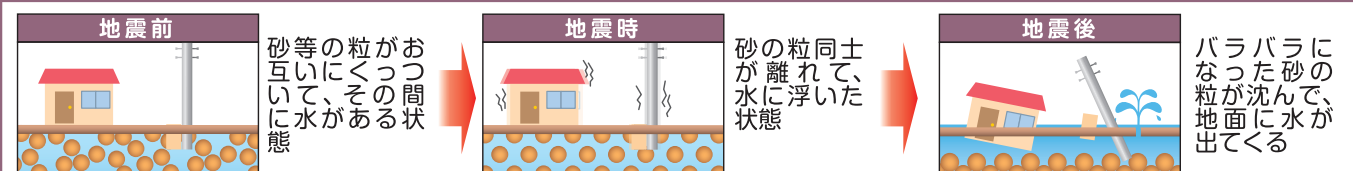


横浜市建築局横浜市都市計画基本図データ（地図情報レベル 2500）により作成
この地図の作成に当たっては、藤沢市の承認を得て、同市発行の 2500 分の 1 図を使用した
この地図の作成に当たっては、逗子市の承認を得て、同市発行の 2500 分の 1 図を使用した

液状化とは

地下水位の高い砂地盤などで地震による振動で地下水の圧力が高くなり、砂の粒の結びつきがバラバラになって地下水に浮いたような状態になることです。
液状化の予測は、地震動予測結果及び液状化の可能性のある微地形を抽出してFL法及び深度方向に積分したPL法により行えます。

液状化の流れ



この液状化危険度マップは、神奈川県公表のPL値(※)による液状化危険度の判定基準に合わせて作成されています。
(※) 地盤の液状化の激しさの程度を総合的に表す指数

液状化危険度の判定区分

液状化危険度	高い ← → 低い				
	15<PL	5<PL≤15	0<PL≤5	PL=0	対象外
PL値による液状化危険度判定	液状化危険度が極めて高い。液状化に関する詳細な調査と液状化対策は不可避。	液状化危険度が高い。重要な構造物に対してはより詳細な調査が必要。液状化対策が一般に必要。	液状化危険度は低い。特に重要な構造物に対して、より詳細な調査が必要。	液状化危険度はかなり低い。液状化に関する詳細な調査は不要。	山地、丘陵、河道など、液状化危険度判定の対象とならない地形。